

平成14年10月30日

各 位

株式会社 UFJホールディングス
(コード番号 8307)

平成15年3月期中間決算連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社が本年5月24日の決算発表時に公表した平成15年3月期中間決算の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、平成15年3月期通期の業績予想および連結業績予想につきましては、中間決算発表時に公表予定です。

記

平成15年3月期中間決算(平成14年4月1日~平成14年9月30日)連結業績予想

(単位:億円、%)

	経常収益	経常利益	中間利益
前回予想 (平成14年5月)	11,500	750	500
今回予想 (前回予想額対比)	11,800 (300)	300 (450)	720 (220)
増減率	2.6	60.0	44.0

【修正の理由】

国債等債券売却益が予想比増加したこと等により業務純益が増加したものの、株式相場の急激な下落に伴い、株式等償却が増加したため、経常利益は減少いたしました。一方、償却債権取立益や退職給付信託設定益などによる特別利益が計上されたため、中間利益は前回予想比増加いたしました。

(注)平成15年3月期中間決算業績予想(単体)に変更はございません。

以 上

当行は投資家の皆様、お客さまなどに対するスピーディな情報公開を目的として、ホームページ上にニュースリリースを掲載しております。

なお、本ニュースリリースには証券取引法第166条に定められた重要事実当たる情報が含まれる可能性があります。重要事実を含むニュースリリースをご覧になられた方が、その重要事実が証券取引法施行令の規定に従い公開された後12時間以内に、UFJホールディングスの株式などの売買等を行なった場合、いわゆるインサイダー取引規制違反として、証券取引法の規定に抵触するおそれがありますのでご注意ください。

連結業績予想の概要

(単位：億円)

	傘下子銀行単体合算計数		
	UFJ銀行	UFJ 信託銀行	合計
実質業務純益(*1)	3,330	450	3,780
株式関連損益	910	570	1,480
うち株式等償却	990	500	1,490
不良債権処理額(*2)	1,840	60	1,900
経常利益	480	360	120
中間利益	720	50	770
株式等評価差額(資本直入前)	1,540	1,260	2,800
自己資本比率(連結)(*3)	10%台後半	10%程度	11%程度
当社単体および連結対象会社(*4)利益等			50
当社連結中間利益	= +		720

(*1) 一般貸倒引当金繰入前業務純益

(*2) 一般貸倒引当金繰入額を含む(UFJ信託銀行は銀行勘定・信託勘定合算で特別利益計上分含む)

(*3) 国際統一基準ベースにて算出(合計はUFJホールディングス連結(第一基準)の計数)

UFJ信託銀行の国内基準自己資本比率は9%台半ば

(*4) 傘下子銀行(UFJ銀行およびUFJ信託銀行)単体を除く当社連結対象会社

【解説】

実質業務純益

子銀行2行合算(傘下子銀行単体合算計数)の実質業務純益は、約3780億円と見込んでおります。

当初予想比増加の要因は、国債等債券売却益が増加したこと、経費が減少したことなどが挙げられます。

株式等償却

株価の急激な下落に伴い、2行合算で1490億円と見込んでおります。

不良債権処理額

2行合算で約1900億円となるものと見込んでおります。

当初予想比減少となったのは、対象債権残高減少等に伴う一般貸倒引当金の戻入れが発生したことが主因です。

当期利益(2行合算)

経常利益は約120億円となるものの、償却債権取立益や退職給付信託設定益などの特別利益があり、中間利益は770億円となる見込みです。

当社単体および連結対象会社利益等

連結対象会社の業績は全般的に堅調であったものの、連結対象会社からの配当金の相殺等連結調整があり、当社単体および連結対象会社利益等は結果的に約50億円になるものと見込んでおります。

以上より、当社連結中間利益は720億円と予想しております。

なお、株式・国債等の評価差額は、2行合算で2800億円程度の評価差損(資本直入前)となる見込みです。

また、自己資本比率は、当社連結で11%程度、UFJ銀行連結で10%台後半、UFJ信託銀行連結で10%程度(国内基準では9%台半ば)と見込んでおります。